



**消防艇 (鹿島港消防署)**

鹿島港の海上防災の要として建造した船です。船舶火災、石油コンビナート火災および大規模災害時の消火活動、水難救助活動を行ないます。

**大型化学消防自動車 (コンビナート災害対応)**

約2,000リットルの泡消火薬剤を積んでおり、給水栓から取った水と混ぜて使用します。危険物施設火災や石油コンビナート火災などに威力を発揮します。



**大型高所放水車 (コンビナート災害対応)**

石油コンビナート火災や化学薬品火災など、人が近づけない火災現場で高所から効果的に注水、泡放射をすることができます。また、高所での人命救助活動にも活躍します。



黄色いバスケットに人を乗せ、高所で作業できる

**泡原液搬送車 (コンビナート災害対応)**

化学泡を発生させるために必要な泡消火薬剤(4,000リットル)を運ぶ車です。通常、大型高所放水車と大型化学消防自動車の2台とともに3点セットとして出動します。



**救助工作車**

火災、交通事故、地震などあらゆる災害で人命救助活動ができるよう、ウインチ、クレーン、発電機、照明などを装備し、救助用資機材を積んだ車です。主に高度救助隊員が使います。



**高規格救急自動車**

救急救命士が乗車し、急病の人やけがをした人などを病院に搬送する車です。救命処置ができる資器材や装置などを積んでいます。



**消防指揮車**

災害現場へ出動した消防隊が組織的かつ効果的に活動できるよう、現場で指揮をするための車です。「危ない、下がれ！」など隊員の安全管理も行ないます。



**支援車**

集団災害や大規模災害など、多種多様な災害時の後方支援として活動します。緊急消防援助隊の要請を受けた場合は、人員や物資の運搬、宿営などさまざまな役割を担います。



**水槽付消防ポンプ自動車**

約2,000リットルの水を積んでいるため、消火栓とつながなくても出火建物の近くで素早く消火活動を始めることができます。



**資機材搬送車**

資器材や物資の搬送を目的とした車です。大規模災害時には、後方支援車としてエアータンクなどの必要資機材を運びます。



**消防ポンプ自動車**

消防活動の主力となる車で、一般的な火災防衛に一番よく使われます。水を積んだポンプ車よりも小型なので細い道にも入りやすく、水槽付消防ポンプ自動車への送水にも役立ちます。

**防災力を高めるために**

出動がないときも、隊員はさまざまな仕事をしています。消防隊と高度救助隊は、消火や救助の訓練、資器材の点検をはじめ、建物の消火設備の検査業務、避難訓練や防災教育などを行なっています。また救急救命士は医師を囲んでの検診会、病院での実習などで常に知識や技術を高めています。

またこうした業務のほか、隊員は事務も行ないます。「事務は総務、警防、予防グループの3つに分かれていて消防署見学の対応、庁舎の維持管理、災害活動に関する報告書の作成、火災予防に関する書類の審査・指導などをそれぞれ協力しながら行なっています」と総務グループ総括係長の春秋直樹さんが教えてくれました。

さて、9月1日は防災の日です。私たちに必要な防災の心構えについて、高木さんは次のように話します。



「今年で関東大震災から100年、東日本大震災から12年が経ちます。あのような規模で災害が同時に多発すると、消防でも対応が困難になってしまいます。そんなときに大切なのが自助共助。それにより自分や周囲の人の助かる可能性が高くなります」

最後に神栖消防署から市民の皆さんへのメッセージをいただきました。「消防署は皆さんの安全を守る所です。災害は起こらないに越したことはありませんが、ゼロにするのは困難です。そのため、火災、事故、急病のとき皆さんの命を助けるには何が最善かを職員一同で毎日考え、訓練を行なっています。神栖消防署があることで、少しでも市民の皆さんが安心して暮らせるよう、これからも消防職員としての誇りを持ち業務に当たります。消防が必要なときは119番してください」

皆さんもこの機会に、「いざというとき迷わず行動できるか」自分に問いかけてみませんか？そして、職場の避難訓練、地域の防災訓練、消防署が実施している救命講習などにぜひ参加して、防災力を高めましょう！

鹿島臨海工業地帯を有する神栖の消防署には、特殊な車両がいっぱい。その一部を紹介します。